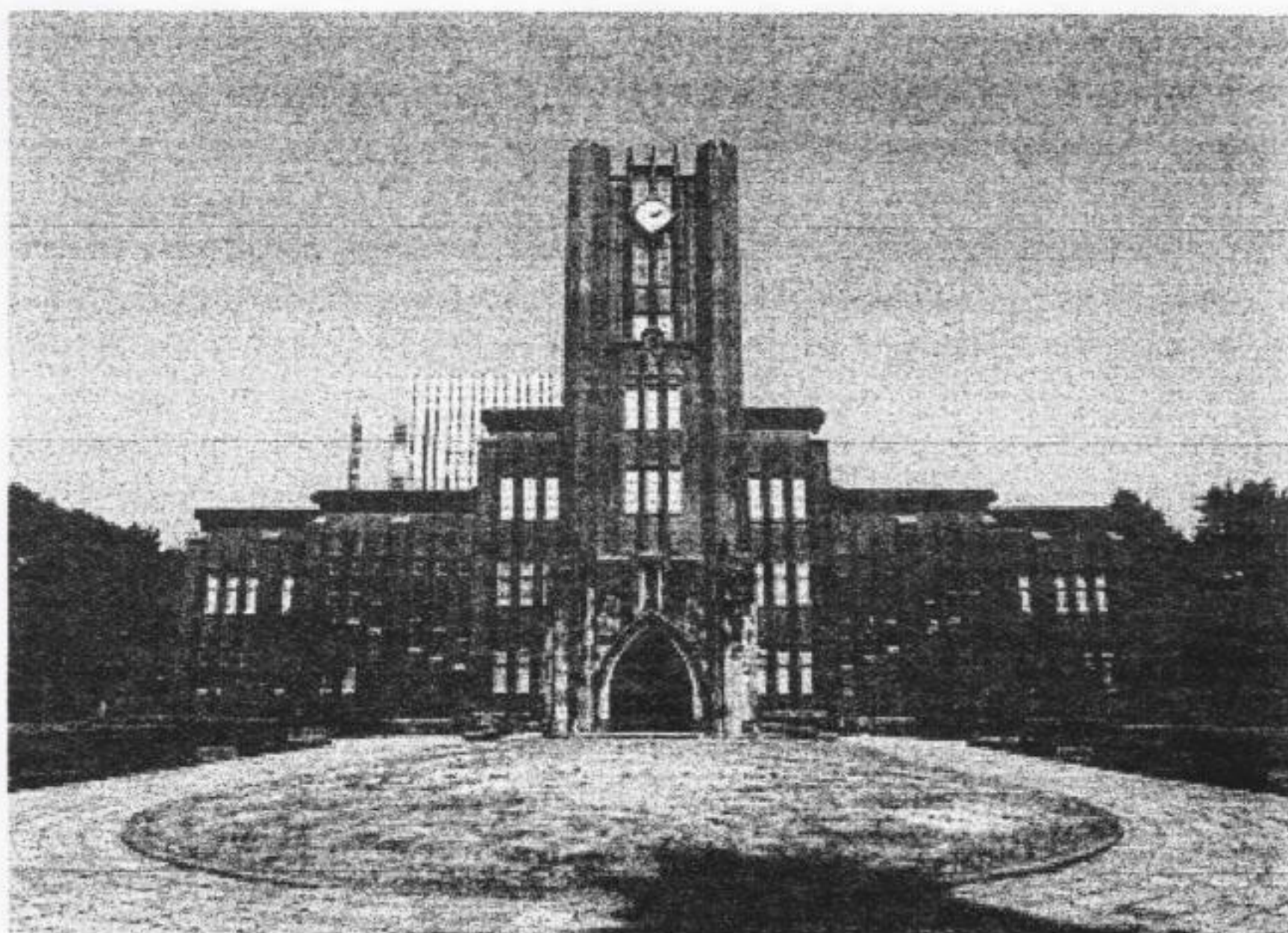


平成24年7月 29 日(日)

第429回 史跡めぐり

# 上野・湯島・根津方面

あなたの東大を散策



NPO 法人 越谷市郷土研究会

北越谷駅 7:50 集合

上野駅

- ① 上野東照宮
- ② おばけ灯籠
- ③ 上野大仏
- ④ すり鉢山古墳
- ⑤ 不忍池弁天堂
- ⑥ 下町風俗資料館
- ⑦ 湯島天神
- ⑧ 麟祥院（春日局の墓）
- ⑨ 旧岩崎邸庭園
- 東大構内 ⑩ 三四郎池
- ⑪ 安田講堂
- ⑫ 赤門
- 昼食（東大中央食堂）

⑬ 根津神社

根津駅

北越谷駅 17:00 帰着予定

案内者 〓 常任理事・渡辺和照

参加費 〓 三、〇〇〇円

（交通費・入館料・昼食代・保険料など）

集合 〓 北越谷駅西口広場 午前七時五十分

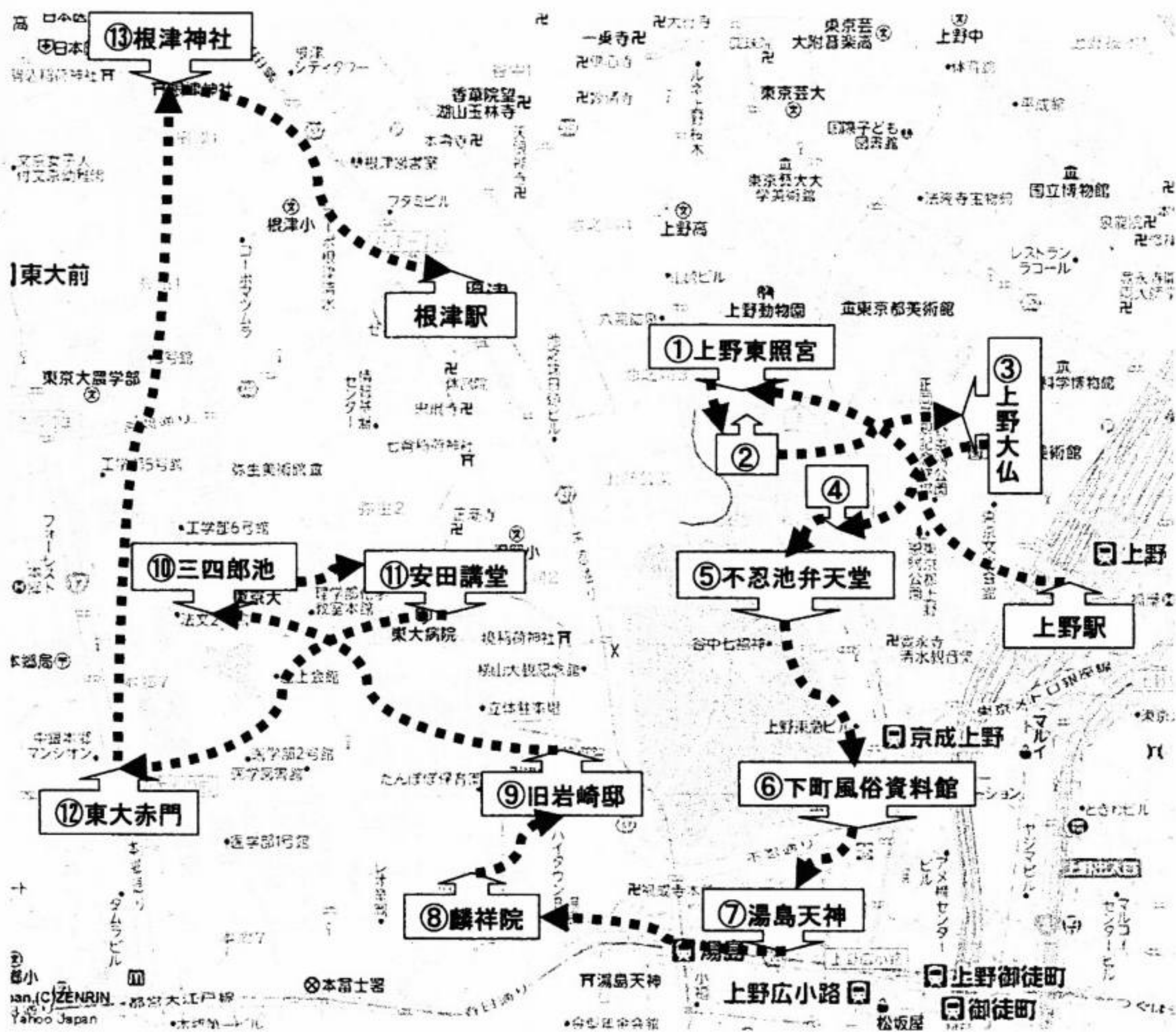
日時 〓 平成二十四年七月二十九日（日）

上野・湯島・根津方面  
江戸から明治へ あなたの東大を散策する



上野の山に高さ約7mの大仏が鎮座していた  
関東大震災で頭部が落ちてしまい、現在は  
顔だけが残されている

# 上野・湯島・本郷・根津方面



\* ..... コース ..... \* 北越谷駅 → 上野駅 → ①上野東照宮 → ②おぼけ灯籠 → ③上野大仏 → ④すり鉢山古墳 → ⑤不忍池弁天堂 → ⑥下町風俗資料館 → ⑦湯島天神 → ⑧麟祥院 (春日局墓) → ⑨旧岩崎邸 → ⑩~⑫ 東大構内 (三四郎池・赤門) → 昼食 (安田講堂地下食堂) → ⑬根津神社 → 根津駅 → 北越谷駅

## ●上野東照宮

藤堂高虎は上野山内のなかに、徳川家康を追慕し、家康を祭神として宮祠を造った。これが上野東照宮の創建といわれている。

あるいは寛永四年（一六二七）、宮祠を造営したのが創建という。正保三年（一六四八）朝廷は家康に「東照宮」の宮号を贈り、それ以後、家康を祭る御宮を東照宮と呼ぶようになった。江戸城紅葉山にも東照宮が造営されたが、特に一般市民にも参詣できるようにとの配慮から、浅草寺境内に浅草東照宮が造営されてもいたが寛永十九年（一六四二）焼失したため、浅草東照宮に代わるべき東照宮建立が家光によってすすめられ、慶安四年（一六五二）上野東照宮として新たに建立されたのが現在の社殿で、その後数



現在修復中の上野東照宮

回、修理を加え、現在に至る。社殿の構造は、手前からは拝殿・幣殿（石の間ともいう）・本殿からなり、様式を権現造りという。社殿は東京都内でも代表的な、江戸時代初期の権現造り。華麗荘厳を極め、金色堂とも呼ぶ。

本殿・拝殿・幣殿は、唐門・透塀とともに構造・様式が優れ、貴重であるので、国の重要文化

財に指定されている。平成二十五年十二月末まで五年間に亘り改修工事が行われている。

## ●おばけ灯籠

佐久間大膳亮勝之が東照宮に寄進した石造の燈籠で、奉寄進佐久間大膳亮平朝臣勝之東照大権現御宝前石燈籠・寛永八年辛未孟冬十七日と刻字し、寄進者・寄進年月を知ることが出来る。寛永八年（一六三一）当時、東照宮は創建して間もなく、社頭には、現存の大鳥居・銅燈籠・石燈籠などは、まだわずかしかならぬ奉納されていなかった。勝之は他にさきがけて、この燈籠を寄進したのである。勝之は、織田信長の武将佐久間盛次の四男。母は猛将柴田勝家の姉という。信長・北条氏政・豊臣秀吉、のち徳川家康に

仕え、信濃国川中島ほかで一万八千石を領した。燈籠の大きさは、高さ六・六米、笠石の周囲三・六三米と巨大で、そ



おばけ灯籠

の大きさ故に「おぼけ燈籠」と呼ぶ。京都南禅寺・名古屋熱田神宮の大燈籠とともに、日本三大燈籠に数えられる。

## ●上野大仏

- ・寛永八年（一六三二）  
越後村上藩主、堀直寄が戦死者慰霊の漆喰の釈迦如来坐像を建立。
- ・天保十二年（一八四二）、火災により大仏、仏殿が損傷する。



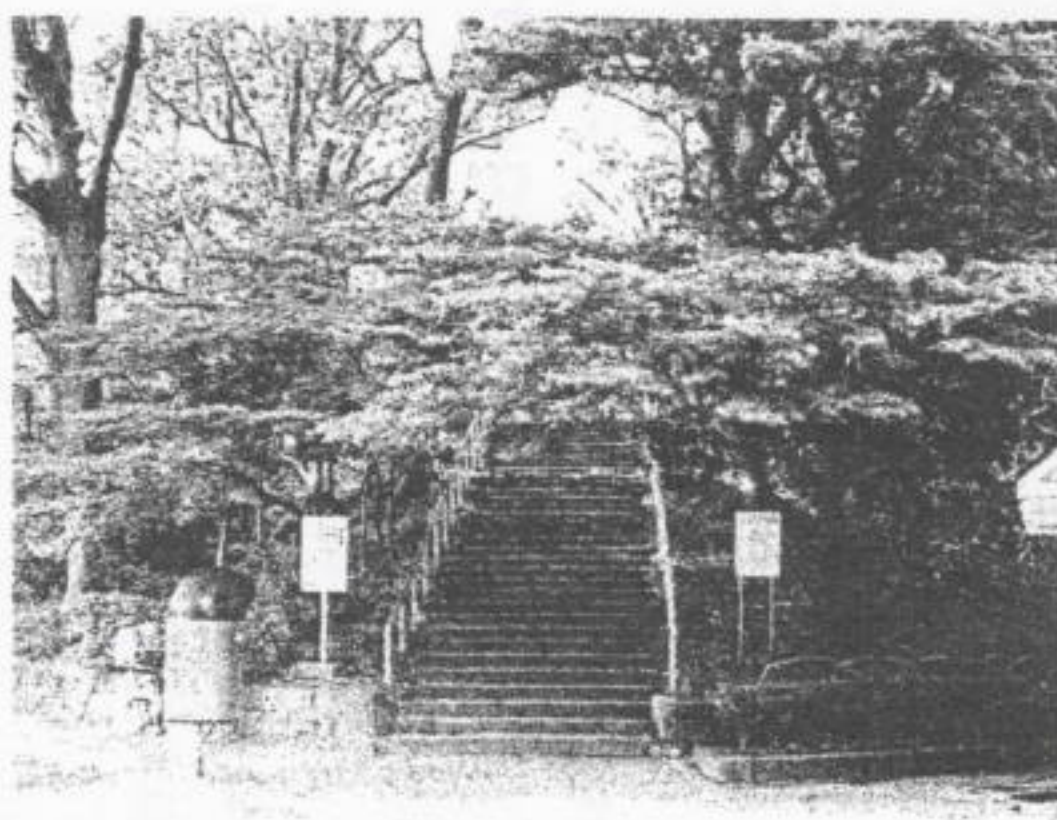
- ・大正十二年（一九二三）、関東大震災により頭部が落下。大破し金の目処が立たず再建計画は放棄される。
- ・昭和四十二年（一九六七）、関東大震災の五十回忌にあたり、上野観光連盟が願主となり大仏再建を願う祈願塔を建立する。
- ・昭和四十七年（一九七二）、寛永寺に保管されていた顔面部をレリーフとして旧跡に安置する。

現在の東京都台東区上野恩賜公園内に建立されていた大仏。像高約六メートルの釈迦如来坐像だった。現在では顔面部のみがレリ

ーフとして保存されている。所在地は上野精養軒に隣接する大仏山と呼ばれる丘の上。薬師仏を祀るパゴダ様式の祈願塔と志納所が併設されている。

## ●すり鉢山古墳

すり鉢山古墳は上野恩賜公園内、東京都文化会館前、公園管理事務所横にあります。上野動物園のすぐ近くであります。墳丘形状も変形しています。墳が、種別は、前方後円墳で規模は不明です。すぐ横には正岡子規記念球場もある公園の真っ只中ですが、古墳であることに気づく人はほとんどいません。



この上野台地上には他にも東京国立博物館の敷地内の表慶館古墳や円墳の蛇塚などもかつて確認されており、この台地上に古墳群が形成されていたようです。

## ●不忍池弁天堂

寛永二年（一六二五）天海僧正は、比叡山延暦寺にならない、上野台地に東叡山寛永寺を創建した。不忍池は、琵琶湖に見立てられ、竹生島に因んで、常陸の国下館城主水谷（みずのや）勝隆が池中に中之島「弁天堂」を築き、さらに竹生島の宝巖寺の大弁財天を勧請し、弁天堂を建立した。同時に水谷勝隆は自分の下屋敷邸内の池にも屋敷神として、弁財天をお祀りした。いわゆる姉妹

弁天とし、西方にあたる不忍池の弁財天を夕日、東方に当たる水の谷の弁財天を朝日弁財天と称したが大正十二年の関東大震災で罹災し池と共に鳥有に帰した。



当初弁天島へは小舟で渡っていたが、寛文年間（一六六一・七二二）に石橋が架けられて、自由に往来できるようになり、弁天島は弁財天に参詣する人々や行楽の人々で賑わった。

弁天堂は、昭和二十年の空襲で焼失し、昭和三十三年九月に再建された。弁天堂本尊は、慈覚大師の作と伝えられる八臂の大弁財天、脇士は毘沙門天、大黒天である。

本堂天井には、児玉希望画伯による「金龍」の図が画かれている。また、本堂前、手水鉢の天井に天保三年（一八三二）と銘のある谷文晁による「水墨の龍」を見ることが出来る。

## ●下町風俗資料館

古き良き下町の文化を永く後世に伝えるために。明治・大正ころまでの下町には江戸の名残がありました。しかし大正十二年（一九二二）の関東大震災、昭和二十年（一九四五）の戦災によって、ほとんどの面影をなくし、さらに目覚ましい復興を遂げた戦後、特に昭和三十年代後半には東京オリンピックを契機とする再開発が積極的に進められ、街はすっかり様変わりしました。古き良き下町の文化が失われつつあることに、憂いの声が上がったのは昭和四十年代のことでした。それは次第に下町を愛する人々の間に広がり、やがて庶民の歴史である下町の大切な記憶を次の世代へ伝える資料館設立の構想が生まれたのです。これを実現するために台東区内外からたくさんの方々が貴重な資料を寄贈されました。

多くの人々の長い歳月をかけた願いが実り、台東区立下町風俗資料館は、昭和五十五年（一九八〇）十月一日ここに開館しました。

## ●湯島天神

\*湯島天満宮略記

御祭神は菅原道真公で例祭日は五月二十五日です。

湯島天満宮は、雄略天皇二年（四五八）一月勅命により創建と伝えられ、天之手力雄命を奉斎したのが始まりである。降つて正平十年（一三五五）



二月郷民が菅公の御偉徳を慕い、文道の太祖と崇め本社に勧請し合わせて奉斎した。文明十年（一四七八）十月太田道灌これを再建し、天正十八年（一五九〇）徳川家康公が江戸城に入るにおよび、特に当社を崇敬すること篤く翌一九年十一月豊島郡湯島郷の内五石の朱印地を寄進し、もって祭祀の料にあて、泰平永き世が続き、文教大いに賑わうようにと菅公の遺風を仰ぎ奉ったのである。

將軍徳川綱吉公が湯島聖堂を昌平坂に移すにおよび、この地を久しく文教の中心としていよいよ湯島天満宮を崇敬したのである。

明治五年（一八七二）十月には郷社に列し、ついで同十八年（一

八八五）八月府社に昇格した。明治維新以前は、上野東叡山寛永寺が別当を兼ね、喜見院がその職にあたった時期があった。

元禄十六年（一七〇三）の火災で全焼した際、宝永元年（一七〇四）將軍綱吉公は、金五百両を寄進している。

明治十八年に改築された社殿も老朽化が進み、平成七年十二月、後世に残る平成の文化財として、総檜造りで造営された。

### \*総檜木造りの湯島天神社殿

現社殿は、御本殿と参拝する人のための拝殿が、幣殿で結ばれている「権現造り」の建築様式で、日本古来の「木の文化」を後世に残すべく、平成七年に純木造で建て替えられた。今日、建築基準法では、たとえ社寺建築であろうと、防火地域において、新たな木造建築は認められていないのだが、近代的防災設備を整え、関係機関の一年近い慎重審議を経て、建設大臣認定第一号として、とくに木造建築が許可された。ご用材は、営林署と木曽材木組合の全面的な協力を得て、樹齢二百五十年といわれる木曾檜を使用している。

### ●麟祥院・からたち寺（春日局の墓）

臨濟宗・妙心寺派・天沢山・麟祥院

開基「春日局」は徳川三代將軍家光の乳母として知られている。

功なり名をとげた

春日局は、幕府の恩恵に報えるために、本郷湯島に寺院を建立しようとおもいたった。

これを知った將軍家

光は、願いを叶いさせるために本郷湯島の土地を寺地として贈った。願いがかなえられた春日局は、「報恩山天沢山」と名付けた。

寛永七年（一六三〇）渭川という高僧を新しく住職として迎え、改めて春日局自身の菩提寺とした。

春日局は明智光秀の家臣齋藤利三の娘お福として生まれ、京都司代板倉勝重に推挙されて大奥に入り、大きな勢力をふるうにいたる話は有名である。

墓石に四方から穴が貫通している大変めずらしい形をしています。これは局が「黄泉（よみ）からも天下のご政道を

見守れる墓」を作ってほしいという遺言によってこのような形に寛永二十一年建立されたものです。



### ●旧岩崎邸・庭園（旧岩崎久弥邸）



岩崎久弥は、海運業から三菱会社を興し三菱財閥を創設した岩崎弥太郎の長男として慶応元年に生まれた。久弥はペンシルバニア大学を卒業した後、ヨーロッパ諸国を巡って明治二十四年に帰国し、明治二十六年から大正五年まで三菱合資会社社長を務めた。明治二十七年に結婚し、本邸の建設の準備を始め、竣工したのが明治二十九年である。

この竣工の年、久弥は男爵を授けられた。準備していた邸宅は、実業家の住まいから男爵の屋敷へと変わったのである。

この場所は、江戸期に越後高田藩榊原氏、旧舞鶴藩牧野氏の屋敷であった。岩崎邸の庭は、大名庭園の形式を一部踏襲していた。本邸建築時に池を埋めて芝を張り、庭石・燈籠・築山が設けられた。

建築様式同様に和洋併置式とされ、『芝庭』をもつ近代庭園の



初期の形を残している。往時をしのぶ庭の様子は、江戸時代の石碑、広間前の手水鉢や庭石などに見ることが出来る。完成当時の岩崎邸は一万五千坪の敷地に洋館は木造二階建・地下室付きの本格的なヨーロッパ式邸宅で百六十坪、和館は書院造りを基調にしている五百五十坪に及ぶ大規模なもの。現在は和館の大部分がなくなり、冠婚葬祭に用いられた大広間の座敷部分が現存するだけになった。設計は、英国人ジョサイヤ・コンドルで日本画を学び、日本人を妻にするなど、終生日本を愛し大正九年日本で永眠する。

## ●東京大学本郷キャンパスを歩こう

東京大学に入る方法は、さしあたって三つある。一つ目は就職、二つ目は入学、三つ目は単に足を踏み入れるだけでよいから受験の必要はない。今回は三つ目である。

働く場所は数多くある。教職員となるばかりではなく、病院、食堂、生協、書店、美容院、花屋、靴屋、時計屋、写真店、文房具店、スポーツ用品店、印刷製本屋、出版社まであり、小さな町を形成している。小さいけれど「町」だから、広場もあれば路地もある。

人口は、教職員、学生合わせて約二万人位といわれ、バスもタクシーも走っている。くれぐれもはねられないように。これに、

仕事で来る人、学びに来る人、遊びに来る人が加わる。また東大付属病院を加えると三万人ちかくの人々が暮らす小さな地方都市に匹敵する。

敷地の大半が、加賀百万石、前田家の江戸上屋敷だった。赤門前、正門前を南北に通る大きな道は中山道で、南に行けば湯島聖堂と神田明神の間を抜け、そこから下って日本橋に出る。北に向かうと農学部正門前ですぐ分かれて、中山道は左の道、岩槻街道は右の道を進んだ。本郷追分と呼ばれたその場所は日本橋からちようど一里に当たっていた。

本郷キャンパスでは、新たに建物を建てるたびに埋蔵文化財を調査する作業が続けられてきた。一番浅い地層からは、東京大学の前史が、すなわち加賀藩江戸上屋敷の遺構や遺物が発見された。一番の驚きは、前田家伝来の絵図面ではわからなかった地下室が随所に発見された。その数およそ百四カ所で食糧貯蔵施設と推定された。前田家江戸上屋敷の巨大さ、膨大な資金力があつたことが推測される。

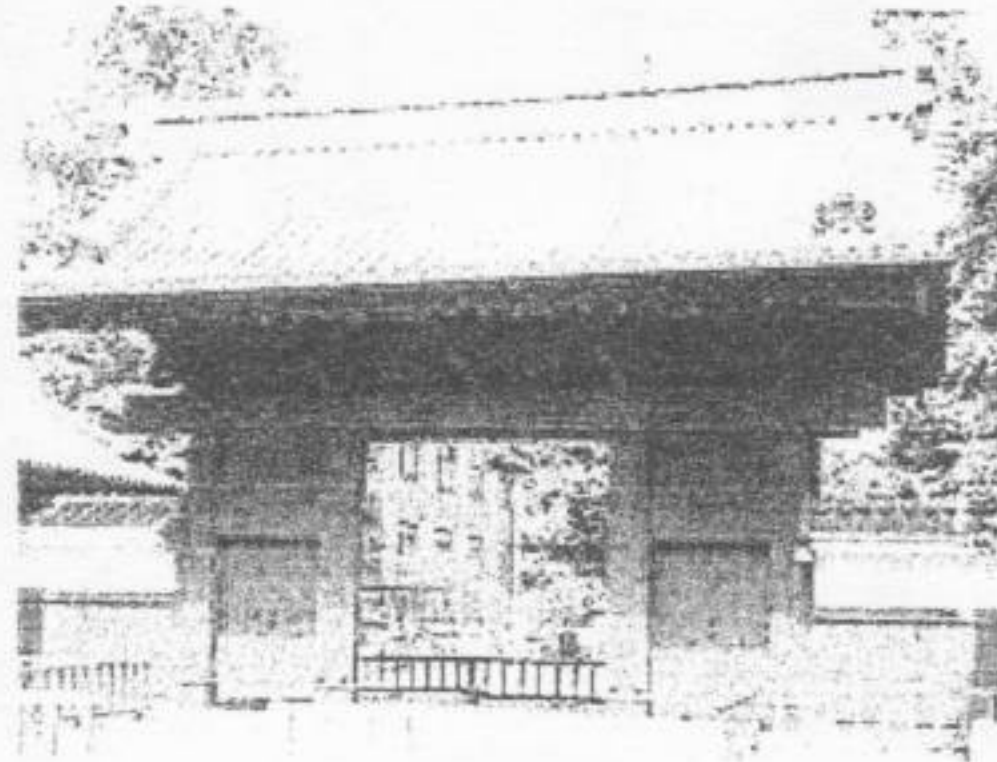
幕末の時点で洋学の研究教育の場として、九段下の開成所が、神田お玉が池に医学所が設けられ、いずれも明治政府によって接収された。そして、教育方針が儒学から洋学へと大きく転換する。維新後の十年間に高等教育の組織は目まぐるしく変わる。一時、開成所が大学南校、医学所が大学東校と改名したのは、湯島聖堂から見てそれぞれ南と東にあつたからで、ある意味では、まだしばらく湯島聖堂が中心を保っていたといえるが、やがて南校と東

校がひとつになり、明治十年（一八七七）東京大学として発足する。総面積は十六万六千坪のとてもない大きさである。

### \*大名屋敷の花・赤門

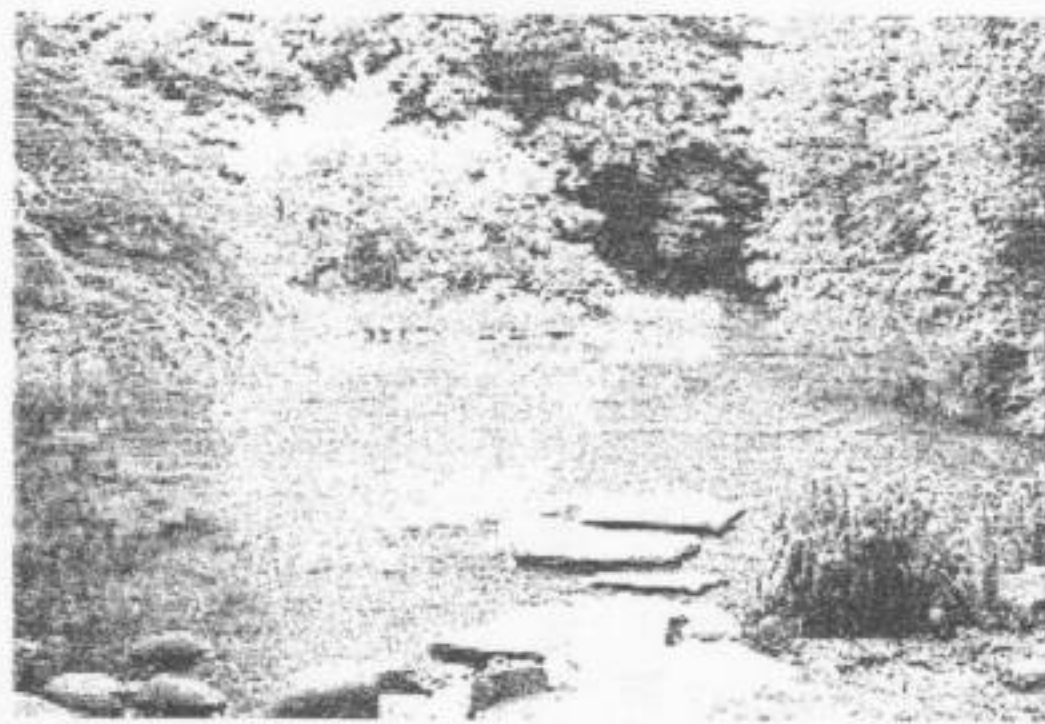
この門は、一八二七年、前田斉泰が徳川將軍家斉の第二十一女、溶姫を迎え入れるに際に作られた。薬医門という形式を踏襲するもので、將軍家から夫人を迎える場合の当時の慣例で朱塗りとされた。現在、同種の門は他に残っていないといわれ、戦前は国宝であった。

昭和三十五年には全面的な解体修理を受けている。明治末の移築の時以来の修理で、漆も塗り直され、海鼠壁も真新しくなった。純白の漆喰に漆の朱色や海鼠瓦の黒が映え、なかなか美しい。梅鉢紋・大学の紋が確認される。



### \*三四郎池・育徳園心字池

夏目漱石が「三四郎」を書くずっと前から三四郎池はあった。ただし名前は違う。それは加賀藩の庭園、育徳園の池であり、心字池と呼ばれた。「心」の字に似たその姿は、今もほとんど変わっていない。いつ訪れても人影がなく、しんと静まりかえっている。



漱石はそれを「池」としか呼んでいない。そして、そこを三四郎と美禰子、田舎出の青年と都会の女性との単なる出会いの場に使っただけではなかった。池は、むしろ三四郎の孤独を伝える最初の重要な舞台となっている。池は静かで、電車の音もしない。赤門前を通るはずの電車は、大学の抗議で、小石川を回ることになったという。「電車さえ通さないと云う大学は

余程社会と離れている」。

しかし、「現実世界はどうも自分に必要らしい」と思い直し、ふと眼を上げた時に美禰子が現れるのである。

やがて、この池が「三四郎池」と呼ばれるようになるのは、大学が社会とは別世界であることの象徴として、いかにもふさわし

いものであったからだろう。そして、それを疑わない時代が長く続いたのである。

### \*東京大学・本郷キャンパスの食堂

現在、生協が本郷キャンパスで経営する食堂は、農学部食堂を含めて四店舗、四店舗の合計席数は一二三〇席で一日当たりの利用者数は七千人を超える。四店舗の中で一番大きい食堂は中央食堂で四二〇席、一日の利用者数は三千人を超える。このほかに、本郷キャンパスには、病院を含めて九カ所の食堂が設置されている。

### \*山川健次郎伝・白虎隊士から帝大総長へ



明治、大正から昭和の初期にわたり「星座の人」と呼ばれた教育界の大御所がいる。社会を導く人という意味である。その人の名前は山川健次郎という。生地は会津若松で、嘉永七年（一八五四）の生

まれ。幼少の頃はあの有名な白虎隊の隊士だった。十七歳のときアメリカ留学の機会に恵まれ、名門エール大学に学び、長じて東京帝国大学に奉職し、薩長藩閥政府のなかで二度も総長を務めた。これは異例中の異例といってよい。

明治三十四年四十八歳の時と大正二年六十歳の時の二度である。この間、京都帝国大学、九州帝国大学の総長も務めた。

東北帝国大学の創立にも深く関係し、東京物理学校、現在の東京理科大学の創立にも尽力した。

終生清廉潔白を旨とし、東京小石川の住まいは田舎臭く破れ別荘のようであった。芸妓が出る宴会には出席せず、講演会に招かれても報酬は一切受け取らなかった。相当の堅物だったが部下や学生には相当優しくかった学長であった。いまの日本に求められるのは、山川健次郎のような人物である。

### ●根津神社

当神社は今から千九百余年の昔、日本武尊が千駄木の地に創祀したと伝えられる古社で、文明年間には太田道灌が社殿を奉建している。

江戸時代五代將軍徳川綱吉は世嗣が定まった際に現在の社殿を奉建、千駄木の旧社地より御遷座した。明治維新には、明治天皇御東幸にあたり勅使を遣わされ、国家安泰の御祈願を修められる等、古来御神威高い名社である。「根津権現」は当社の古称。



**\* 御社殿**

宝永二年五代將軍  
綱吉は兄綱重の子綱  
豊(六代家宣)を養嗣  
子と定めると、氏神根  
津神社にその屋敷地  
を献納、世に天下普請  
と云われる大造営を  
行った。翌年(一七〇  
六)完成した権現造り  
の本殿・幣殿・拝殿・  
唐門・西門・透門・楼

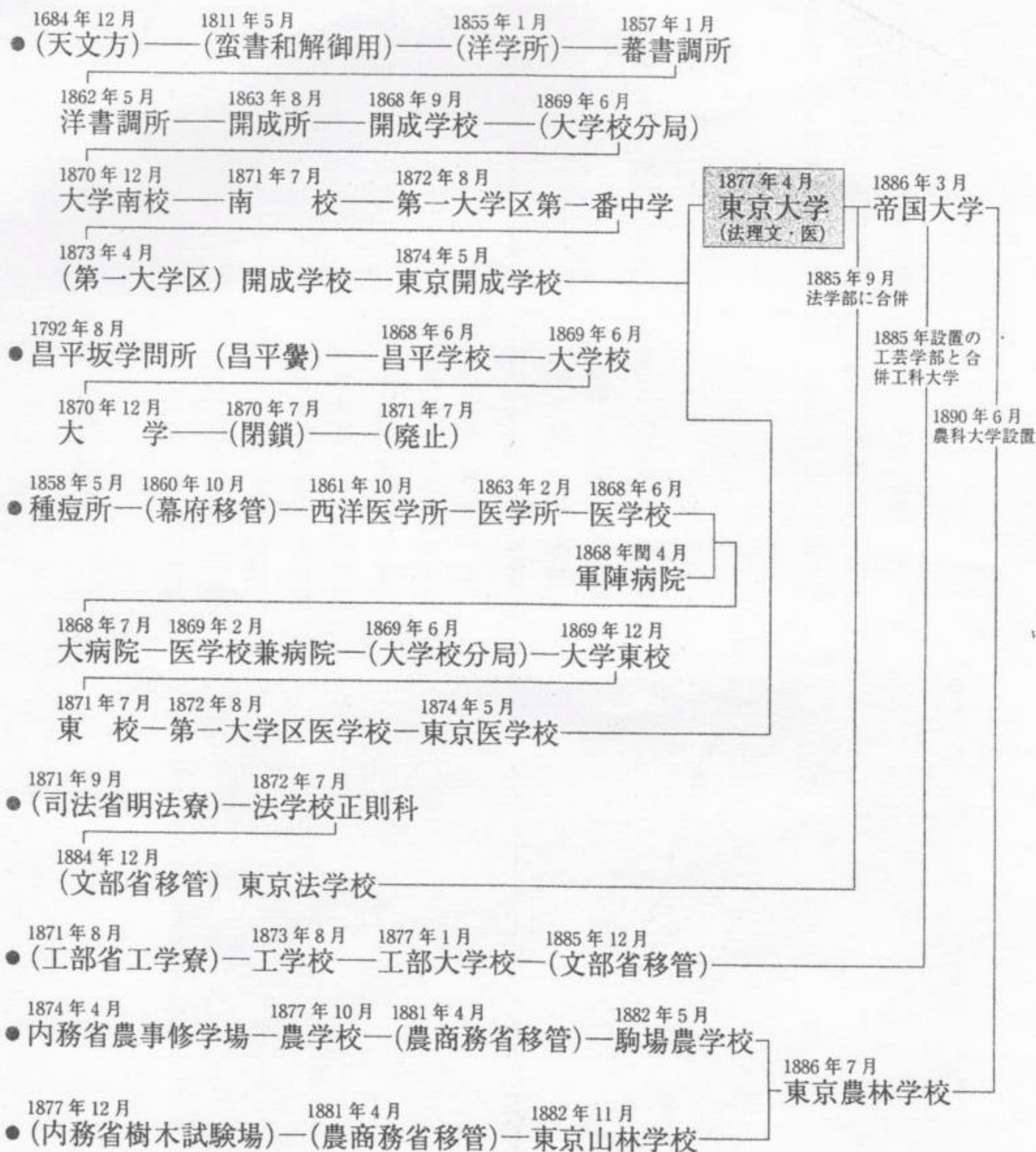
門の七棟が全て現存し、昭和六年国宝(現重文)に指定されている。

**\* つつじヶ岡**

境内地となる以前、前記徳川綱重が屋敷の庭につつじを植えた  
ことに始まり、七千坪の神苑は世につつじヶ岡と呼ばれる府内の  
名勝であった。今も花季には数十種三千株が咲き乱れる。



## 帝国大学成立までの東京大学の沿革



(東京大学庶務部学務課編「東京大学の概要 (平成3年度)」より)

# 本郷キャンパス

作成：東京大学総務部広報課

デザイン：黎デザイン総合計画研究所

(本書への転載にあたり一部改変した箇所があります)

0m 100m 200m 300m



千代田線根津駅



南北線東大前駅



至 三田線春日駅



不忍池

至 湯島



千代田線湯島駅

至 神田

不忍通り

池之端門

旧発電所

▲ベルツの庭石

●医学部附属病院東研究棟

●医学部附属病院入院棟B

●医学部附属病院入院棟A

▲旧岩崎邸

春日通り

●医学部附属病院内科研究棟

●医学部附属病院旧中央診療棟

●医学部附属病院新中央診療棟

●医学部附属病院第1研究棟

●医学部附属病院管理・研究棟

●医学部4号館

●医学部附属病院外来診療棟

理学部化学館

▲記念館エントランス



●医学部附属病院南研究棟

山上会館龍岡門別館



都02  
上69

本郷地区

▲ベルツとスクリバ像

▲ヒボクラテスの木

▲ミユルレル像

●医学部総合中央館  
(図書館)

●広報センター(旧夜間診療所)

●御殿下グラウンド

七徳堂

●医学部総合中央館  
(図書館)

●薬学部

●本部棟



学01  
学07

山上会館

▲ナンジャモンジャノキ

●医学部国際共同研究棟

▲廣川宗雄像

●理学部5号館  
(留学生センター)

●医学部5号館

▲三四郎池(育徳園心字池)

▲解剖台の顕彰碑

●理学部5号館  
(留学生センター)

●産学連携プラザ

▲浜尾新像

●医学部2号館本館

●医・疾患生命工学センター

●産学連携プラザ

▲鎌倉と小口(地下)

弓道場

●医学部2号館本館

●医学部教育研究棟

●医学部3号館

●文学部3号館

弓道場

●医学部2号館本館

●医学部教育研究棟

●医学部3号館

●文学部3号館

弓道場

●医学部2号館本館

●医学部教育研究棟

●医学部3号館

●文学部3号館

弓道場

●医学部2号館本館

●医学部教育研究棟

●医学部3号館

●文学部3号館

弓道場

●医学部2号館本館

●医学部教育研究棟

●医学部3号館

●文学部3号館

弓道場

●医学部2号館本館

●医学部教育研究棟

●医学部3号館

●文学部3号館

弓道場

●医学部2号館本館

●医学部教育研究棟

●医学部3号館

●文学部3号館

弓道場

●医学部2号館本館

●医学部教育研究棟

●医学部3号館

●文学部3号館

弓道場

●医学部2号館本館

●医学部教育研究棟

●医学部3号館

●文学部3号館

弓道場

●医学部2号館本館

●医学部教育研究棟

●医学部3号館

●文学部3号館

弓道場

●医学部2号館本館

●医学部教育研究棟

●医学部3号館

●文学部3号館

弓道場

●医学部2号館本館

●医学部教育研究棟

●医学部3号館

●文学部3号館

弓道場

●医学部2号館本館

●医学部教育研究棟

●医学部3号館

●文学部3号館

弓道場

●医学部2号館本館

●医学部教育研究棟

●医学部3号館

●文学部3号館

弓道場

●医学部2号館本館

●医学部教育研究棟

●医学部3号館

●文学部3号館

弓道場

●医学部2号館本館

●医学部教育研究棟

●医学部3号館

●文学部3号館

弓道場

●医学部2号館本館

●医学部教育研究棟

●医学部3号館

●文学部3号館

弓道場

●医学部2号館本館

●医学部教育研究棟

●医学部3号館

●文学部3号館

弓道場

●医学部2号館本館

●医学部教育研究棟

●医学部3号館

●文学部3号館

弓道場

●医学部2号館本館

●医学部教育研究棟

●医学部3号館

●文学部3号館

弓道場

●医学部2号館本館

●医学部教育研究棟

●医学部3号館

●文学部3号館

弓道場

●医学部2号館本館

●医学部教育研究棟

●医学部3号館

●文学部3号館

弓道場

●医学部2号館本館

●医学部教育研究棟

●医学部3号館

●文学部3号館

弓道場

●医学部2号館本館

●医学部教育研究棟

●医学部3号館

●文学部3号館

弓道場

●医学部2号館本館

●医学部教育研究棟

●医学部3号館

●文学部3号館

弓道場

●医学部2号館本館

●医学部教育研究棟

●医学部3号館



茶51  
東43



大江戸線本郷三丁目駅



丸ノ内線本郷三丁目駅



至 三田線春日駅

至 御茶ノ水

かねやす

作成年月 2004.6

参考資料

- ・台東区名所図会史跡説明ガイドブック 台東区教育委員会
- ・下谷浅草歴史散歩 台東区芸術・歴史協会
- ・東京大学本郷キャンパス案内 財団法人東京大学出版会
- ・山川健次郎 白虎隊士から帝大総長へ 平凡社
- ・湯島天神・根津神社・麟祥院・資料他